



けいせん

2016.5.30



園庭の桜の葉が茂り、気もちのよい木かげをつくってくれています。その下では色水のジュースやさん、どろどろごり作り、ままごとなど、それぞれが女子きな遊びをTのしんでいます。4月に入園した子どもたちも少しずつ園に慣れてきて、様子にも変化がみられるようになりまして。(はじめは泣いていてけれど、すっかり笑顔になった子、わかってきたがゆえに不安を感じるようになった子、そろそろ疲れがたまってきた子...様々です。どれもよい悪いではなく、その時々に必要な姿としてとらえ、一人ひとりの思いを受けとめていと思っています。

先日の(はらぐみ(年少)での出来事。お弁当の時間になり、みんな準備を始めました。お弁当手順も覚え、自分でできる子も増えてきて、それぞれに好きな席にナフキンを敷いています。すると、「こに、ぼくの席!!」「ちがう!ぼくが先にすわったと!!」と、2人の男の子の声。ひとつの席をめぐるもめています。しばらく様子を見ていましたが、どちらもゆずりません。「Aくんはどうしたいの?」「こにすわりたい!」「そうかあ。どうしてもこにすわりたんだね。Bくんはどうしたいの?」「せつこにこがいい。Tで先にすわったともん!」「そうかあ。Bくんは先に準備していたからかわりたくないんだね。」「こまったねえ。どうしようか...」と一糸着りに悩んでいると、Bくんが「Tで、もうお茶が入るともん」とポツリ。「コップにもうお茶が入っているから動かせたいと思っただね」「そう。」「じゃあ、コップは私が運ぶのをお手伝いすれば、かわってくれるの?」「うん!いいは!!」Bくんは、すぐにバックやお弁当を移動し、席をゆずってくれました。Aくんは、という、ずっともめていて最後、急展開した事態にびっくりしたような表情で、「ありがとう」と言う。うれしそうに、お弁当の準備を始めました。「よてんのおとうさま、いまこにいて、おべんとう、ありがとう。アーン」お祈りのうたをうたって、Tのいいお弁当タイムです。

入園してまだ1ヶ月の年少さんでも、トラブルを自分たちで解決することができました。私がしてこは、一糸着いてこまったT。先にすわっている子を愛失すべきとか、どちらかが我慢してとか解決策は何も持たず、Tは一糸着いて「こまたねえ。」と気もちをくんだだけでした。大人がこの解決はコレ、と決めてこに誘導する方がずっと早いかもしれせん。でも、こに子どもたちの思いはありません。思いがなければ、気もちをお互いに察し内得することはできません。子どもたちの思いに寄り添うこと、見守ること、そして子どもたちの解決する力を信じることの大切さを改めて感じることでできた場面でした。やっぱり子どもってすごい!!